



17日(水)、18日(木)に、初声中学校の2年生2名が東京大学の三崎臨海実験所で、職場体験をさせていただきました。

私が取材した時は、まず、カタユレイホヤの受精から成体までの飼育の様子を詳しく説明していただきました。その後、海上のホヤの飼育いかだまで、船で移動しました。ホヤも、ダイコンのように間引きをしないと大きく成長できないそうで、2人は、その作業のお手伝いをしていました。



ここで、育てたホヤは、全国の研究者の元に送られるそうです。ホヤは、脊索動物で、受精から成体まで、約2か月で成長するそうで、発生学や遺伝子組み換えなどの研究に使われるそうです。

たいへん貴重な体験をさせていただいたようです。

1月26日(土)に、上宮田小学校の体育館で、「みうら海洋教育フォーラム～海はともだち～」が開催されました。市内全小中学校や県立海洋科学高校の発表が行われました。児童・生徒、保護者、吉田三浦市長をはじめとする来賓の皆様等、約300名の参加を得て、盛会のうちに終了することができました。



開会にあたって、本研究所の星野代表理事が、三浦市の海洋教育のこれまでの経過を説明し、児童・生徒の発表への期待を語りました。



各学校の発表より その1

① 三崎小学校4年生

「海調べ～まだ知らない海のひみつをさぐる～」

自分たちが調べてわかった海の生き物の特徴や生態を、劇にして発表しました。それぞれの生き物になりきって、生き物の身の守り方、アマモの森の危機などについて演じました。最後は、全員での踊りで締めくくりました。

② 名向小学校6年生 「名向と人と海と」

パワーポイントを使って、小網代の森の大切さ、真珠の養殖の様子などを紹介し、自然を「守る」ことと、新しく「作る」こと、そして、それらを「つなぐ」ことについて問題提起をしました。立派な発表でした。



(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで